

井筒屋だより

第五十二号
令和七年
二月号『江戸の天才数学者 世界を驚かせた和算家たち』
井筒屋で販売、日本の技術の原点

和算をご存知でしょうか。江戸時代に発展した日本独自の数学のことで、暦の作成や土木工事、航海術などに生かされました。

江戸時代には、和算のベストセラー「塵劫記」を記した吉田光由や、和算を世界的なレベルにまで押し上げた

お寄せください！
みなさんの井筒屋エピソード

「井筒屋だより」では、皆さんの井筒屋の思い出話を募集します。かつての井筒屋旅館だったころ、またはかさま歴史交流館井筒屋が開館してから、忘れられないエピソードをお気軽にお寄せください。手紙、メール、ファクス何でもOK。順次この「井筒屋だより」に掲載します！



平成29年の曳家



作者の鳴海風さん

た関孝和ら、何人も天才数学者がいいました。井筒屋でたびたび紹介している小野友五郎も、その一人です。こうした天才の功績を紹介した書籍『江戸の天才数学者 世界を驚かせた和算家たち』の販売を、このほど井筒屋で開始しました。

著者は『咸臨丸にかけた夢』でお馴染みの鳴海風さん。8人の和算家の業績を、数多くの資料から読み解き、天才たちの実像に迫る

これが和算～「塵劫記」にあるネズミ算

正月に父ネズミと母ネズミから、12匹の子ネズミが生まれました。オスメスそれぞれ6匹ずつです。2月に7組の親からそれぞれ12匹の子ネズミが生まれました。同じくオスメスそれぞれ6匹ずつです。これが毎月繰り返されていくと、12月にネズミは何匹になっているのでしょうか。

↓

答えは、276億8257万4402匹。
なぜそうなるのかは、本書の中に解説があります。



2～3月のイベント

アルトホルンとピアノの調べ

笠間在住アーティストによる 真冬に送る美しいメロディ

日 時：2月23日(日) 午後5時(開場4時30分)

出 演：今井斐(アルトホルン) 小林萌里(ピアノ)

笠間在住アーティストの夢のコラボ。名曲の数々をお楽しみください。



入場料：3000円(予約) 3500円(当日)

民話がたり

～ひとつきいてくだされ～

日 時：3月16日(日) 午前11時～11時30分

出 演：笠間の民話を語る会の皆さん

井筒屋1階の囲炉裏のあるカフェコーナーで、笠間に伝わる民話を、雰囲気たっぷりに語ります



入場料：無料

かさま歴史交流館井筒屋 笠間市笠間 987 電話 0296-71-8118

開館時間 午前9時～午後9時

～このお便りでは、井筒屋の日々の様子やイベントの開催予定等をお知らせしています～



歴史こらむ

明治の初午懷古

初午とは、2月最初の午の日で、昔から稲荷神社の祭礼の日。古い笠間市報に、明治40年代の初午の回顧録があったので抜粋で紹介したい。

※ ※

(初午の)当日は夜明けから、笠間のあちこちで、太鼓が鳴り響いた。大町の天王さん、つまり八坂神社の三尺坊稲荷、新町の城山稲荷、愛宕町の愛宕稲荷など、遠くは東南の彼方から、車坂稲荷の太鼓も聞こえてきたような気がする。

町の子は太鼓を荷車



に積んで引き廻し、途中街の何処かで衝突し、特に子供同志の喧嘩にも発展したこともあったらしい。

三尺稲荷は大町上町の子供が祭る慣例で、その頃は二銭銅貨、一銭銅貨、半銭の時代であった。一銭銅貨を上げると赤飯の大包みを、一銭を上げると普通のを、さい銭箱の脇に座っている子ども一人が、横から見分けて即座にくれた。(中略)

とにかく笠間の町は初午一日で、旧二月の初めの午の日だけで、一年分を儲けてしまうといわれたもので、全く文字通り拳町の祭典であった。私は就学する頃までは、世界中で一番賑やかなのは初午だと信じていた。(中略)

見世物の大蛇、口ク口

首、クモ娘、小びと、一つ目小僧、猿芝居などを全部見ても、十五銭か二十銭あれば足りたもので、木戸銭の要らない居合抜、松井源水の独楽廻し、ガマの膏売り、手品など、つまりはそれが客寄せに演る、売りつけるまでの芸当と解っている。面白くも、つまらないものも、あちらこちらと見て廻り、初午の一日はとてもとても短かったものである。(中略)

夜の幕がおりると、井筒屋、恵比寿屋などの二階三階からは、太鼓三味線のいわゆる弦歌が、夜遅くまで鳴り響いて子ども心に哀愁切なるものがあつた。

※ ※

「市報かさま縮刷版(平成5年発行)」より。村田青子さんの投稿。この方について、詳しいことをご存知の方、井筒屋までご連絡いただければ幸いです。(雄)

陶雛とつるし雛 ～第25回桃宴はじまる～



春を先取りする「かさまの陶雛 桃宴」が始まりました。井筒屋でも陶雛とつるし雛を展示しています。ご覧ください！

【井筒屋ニュース】

猿まわしで新年祝う



恒例の猿まわしが正月期間中行われ、新年を祝いました。



笠間の民話語り

井筒屋のいろりを囲んで、地元の民話が披露されました。

【後記】

最近、地域の方から古い書籍を寄付していただきました。貴重な資料が多い中、「笠間市報縮刷版」は、読み出したら止まらないおもしろさがあります。

特に昭和40年代の市報には、市民からの投稿や投書がいくつも掲載されていて、誰がどんなことを考えていたのか、また、当時の笠間にはどんなものがあつたかを知ることができます。地域の方の生の声をこのような形で残したことは、とても興味深く、意義があるものだと感じます。

「井筒屋だより」も、何十年か後には、そうして読んでもらえるように、地域の人たちの声をもっと載せていきたいと思いました。(雄)